

アカクセニアウミウシ *Phyllodesmium kabiranum*



動物が己の身を守る方法の一つは、隠れることである。物陰に身を潜める場合が多いが、周りに姿を溶け込ませることもある。擬態と呼ばれる現象である。ソフトコーラル類のウミアザミの仲間を観察していたら、ちょっと違和感を覚えた。写真右下のかたまりだ。形は縮んだウミアザミそっくりで色も違わない（左下は本物のウミアザミ）。けれど、ポリプがあまりにびたりと閉じている。そう言えば、ウミアザミそっくりのウミウシがあると聞いたことがある。手にとって見ると、確かにミノウミウシだった（左上の写真）。アカクセニアウミウシという名前で、ウミアザミ類を餌にするという。餌場でじっとしていれば、それが身を隠すことになるというわけだ。さらにこのウミウシは、取り込んだウミアザミの共生藻を消化腺に住まわすらしい。きつと刺胞も盗んでいるのだろう。体の外も内も宿主と密接に関わる。実に巧みな仕掛けである。いったいどのくらいの歴史がこうした関係を作るのだろうか。

撮影：岩尾研二
観察日：2008年8月4日
場所：阿嘉島マジャノハマ

編集後記

編集 岩尾研二（研究員）

「みどりいし」20号をお届けします。たかだか40ページほどの機関誌ですが、20冊もあると200をゆうに超える数の記事が掲載されています。随想や論文紹介、出来事の記録などさまざまですが、やはり一番多いのは科学的な報告です。それはこの20年間の阿嘉島臨海研究所の研究史とも言えます。どれもこれも貴重な報告ですが、ひとつ残念なのは、あまりに自然科学分野に偏り過ぎているくらいがあることです。さんご礁生態系の研究が目的の一つですから、しょうがないことではあります。近年の保全などの動きを考えると、人文・社会科学的なアプローチによるさんご礁と人との関わりについての報告がもっと増えても良いだろうと思います。また、研究所の歴史にも関わることですが、たくさんの方に提出していただいた研究所施設の利用報告書や研究員たちの撮り貯めた画像などが、残念ながら十分に活かされていません。それらの情報を整理し、有効に活用できるものにして、いつか「みどりいし」などでご紹介できればと思います。



発行人
ESTABLISHMENT OF TROPICAL MARINE ECOLOGICAL RESEARCH

財団法人熱帯海洋生態研究振興財団

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ614号 TEL. 03-3490-7266 FAX. 03-3490-8278

AKAJIMA MARINE SCIENCE LABORATORY

阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179 TEL. 098-987-2304 FAX. 098-987-2875

E-mail: amsl@oki-zamami.jp Homepage URL: <http://www.amsl.or.jp>